

高等教育行政における参加型臨地実習の意義

日本看護系大学協議会（JANPU）代表理事

日本赤十字豊田看護大学学長

鎌倉やよい

大学を取り巻く環境の変化

科学技術基本計画（2016年～2020年）

閣議決定 2016年1月22日



Society 5.0 提唱
（第4次産業革命）

2040年に向けた高等教育のグランドデザイン

中央教育審議会 2018年11月26日

科学技術・イノベーション基本計画（2021年～2025年）

閣議決定 2021年3月26日

我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）

教育未来創造会議 2022年5月10日

2040年に向けた高等教育のグランドデザイン答申（2018年11月26日）※

2040年の社会の姿：2018年に生まれた子供たちが大学の学部を卒業する年

- SDGs（持続可能な開発のための目標）
- Society 5.0（第4次産業革命）
- グローバル化の進展
- 人口減少
 - 18歳人口は、2040年には88万人に減少し、現在の7割程度の規模となる推計
- 人生100年時代
 - 超高齢社会

※ https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360.htm

2040年に向けた高等教育のグランドデザイン答申（2018年11月26日）※

1. 2040年の展望と高等教育が目指すべき姿

■ 予測不可能な時代を生きる人材像

- 普遍的な知識・理解と汎用的技能を文理横断的に身に付けていく
- 時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、**論理的思考力を持って社会を改善していく資質**を有する人材

■ 学修者本位の教育への転換

- 何を学び身に付けることができたか + 個人の学修成果の可視化
- 学修者が生涯学び続けられるための多様で柔軟な仕組みと流動性

2040年に向けた高等教育のグランドデザイン答申（2018年11月26日）※

2. 教育研究体制：多様性と柔軟性の確保

■ 多様な学生

- リカレント教育、留学生交流の推進、高等教育の国際展開

■ 多様な教員

- 教員が不断に多様な教育研究活動を行うための仕組みや環境整備

■ 多様で柔軟な教育プログラム

- 学位プログラムを中心とした大学制度、複数の大学等の人的・物的資源の共有、ICTを活用した教育の促進

■ 多様性を受け止める柔軟なガバナンス等

■ 大学の多様な「強み」の強化

SOCIETY 5.0とは※

- サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）。
- IoT（Internet of Things）で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、これらの課題や困難を克服する。
- 人工知能（AI）などにより、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服される。

※ 内閣府, https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/

第6期科学技術・イノベーション基本計画（2021年～2025年）

第1章 基本的な考え方 SOCIETY 5.0という未来社会の実現

■ 我が国が目指す社会（Society 5.0）

□ 国民の安全と安心を確保する持続可能で強靱な社会

- SDGsの達成を見据えた**持続可能な地球環境**の実現
- 現世代のニーズを満たし、将来の世代が豊かに生きていける社会の実現
- 災害や感染症等の脅威に対する**持続可能で強靱な社会**の構築・総合的な安全保障の実現

□ 一人ひとりの多様な幸せ（well-being）が実現できる社会

- **誰もが能力を伸ばせる教育**と、それを活かした**多様な働き方**を可能とする労働・雇用環境の実現
- **人生100年時代**に生涯にわたり生き生きと社会参加し続けられる環境の実現
- 人々が夢を持ち続け、コミュニティにおける自らの存在を常に肯定し活躍できる社会の実現

※ 科学技術・イノベーション基本計画（概要） <https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/6gaiyo.pdf>

我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）

基本理念

- 日本の社会と個人の未来は教育にある。教育のあり方を創造することは、教育による未来の個人の幸せ、社会の未来の豊かさの創造につながる。
- 人への投資を通じた「成長と分配の好循環」を教育・人材育成においても実現し、「新しい資本主義」の実現に資する。

※ 教育未来創造会議 提言 <https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/teigen.html>

我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）

目指したい人材育成

■ 未来を支える人材像

- 好きなことを追求して高い専門性や技術力を身に付け、自分自身で課題を設定して、考えを深く掘り下げ、多様な人とコミュニケーションをとりながら、**新たな価値やビジョンを創造し、社会課題の解決を図っていく人材**

■ 高等教育で培う資質・能力

- **リテラシー／論理的思考力／課題発見・解決能力／未来社会を構想・設計する力／**

※ 教育未来創造会議 提言 <https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/teigen.html>

SOCIETY5.0に向けた看護教育の背景

■ 探求力と学び続ける姿勢を強化する教育・人材育成

□ 学校教育において**STEAM 教育**を受けた学生が大学に入学する。

➤ **STEM (Science, Technology, Engineering, Mathematics)**に加え、芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲でAを定義し、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等**文理横断的学習**

□ 科目を超えて様々な情報を活用・統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造を導く能力を育成する。

□ **多様性**：画一化するのではなく、多様な能力をのばす。

□ **リカレント教育**：何度でも学び直すことができる環境整備が求められる。

SOCIETY5.0に向けた看護教育の背景

- デジタルトランスフォーメーション(Digital Transformation:DX) の推進
 - デジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革すること、既存の価値や枠組みを根底から覆すような革新的なイノベーションをもたらすもの
 - 情報通信技術 (Information and Communications Technology: ICT) の活用
 - モノのインターネット (Internet of Things:IoT) への対応：様々な「モノ」がインターネットに接続され、情報交換することにより相互に制御する仕組みであり、ビッグデータの生成、収集、蓄積、人工知能(Artificial Intelligence: AI)による分析
 - 求められる能力
 - 課題解決のためにAIやデータを使いこなすことができる力
 - フィジカル空間での知識やデータを生かし、サイバー空間へ展開できる力

SOCIETY5.0に向けた看護教育

講義

- 講義：探求する力と自ら学び続ける力を育成する学習方法の検討
 - 対面授業、オンライン授業の効果的な選択
 - Eラーニング学習の導入、オンデマンド教材の提供
 - 多様性を伸ばすカリキュラムの提供
 - リベラルアーツ科目の提供
 - データを使いこなすための科目の提供

SOCIETY5.0に向けた看護教育

演習

- XR教材を開発，シミュレーションモデルやエコー機器を活用し，問題解決能力を育成，プロフェッショナルとしての態度を育成
 - DX推進：クロスリアリティ（XR）：VR, AR, MRの総称
 - 仮想現実（VR）：Virtual Reality
 - 拡張現実（AR）：Augmented Reality
 - 複合現実（MR）：Mixed Reality
 - DX教材を使いこなし、フィジカル空間へ展開できる力

SOCIETY5.0に向けた看護教育

実習

■ 実習：参加型臨地実習の推進，DXの推進，看護実践能力の育成

- 科目を超えて様々な情報を活用・統合し、課題を発見・解決する能力を育成
- 知識・技術・態度が総合された看護実践力を育成

■ 参加型臨地実習

- 看護学生が臨地実習指導者の指導の下、医療チームの一員として、臨地における一定の役割と責任を担いながら看護ケアを実施する。
- 多様な場において、多様な人を対象として援助することを通して、学生が対象者との関係形成を中核とし、多職種連携において必要とされる連携・協働能力を養い、看護専門職としての批判的・創造的思考力と問題解決能力の醸成、高い倫理観と自己の在り方を省察する能力を身に付けることを目指す。（看護学実習ガイドライン）

大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会（2020）看護学実習ガイドライン。文部科学省，
https://www.mext.go.jp/content/20200330-mxt_igaku-000006272_1.pdf

教育の質の向上を目指して：臨地実習を継続するために何が必要か

- 各大学は臨地実習前に、感染制御に関する知識の教示、感染予防対策の教示と演習の実施、感染防護用具を準備したが、**臨地実習の実施が抑制された。**
- 見えてきた課題
 - ① 臨地実習学生の知識と看護技術の到達度に関する保証がない。
 - ② 臨地実習学生は病棟の看護を共に提供するのではなく、学生は看護師が面倒を見る対象である。
 - ③ 臨地実習でしか学習できないこと、大学で代替できることを見直す必要がある。
- **解決に向けて**
 - ① 共用試験の導入によって、臨地実習学生の知識と看護技術の到達度を保証する。
 - ② 参加型臨地実習を実現させる。
 - ③ DXを推進する。

参加型臨地実習の推進

■ スチューデント・ドクター制度の概要

- 共用試験CBT (Computer-Based Testing : CBT)
- 共用試験臨床実習前OSCE (Objective Structured Clinical Examination : OSCE)
- 2005年から公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構 (CATO) により実施されている。
- 全国医学部長病院長会議 (AJMC) がStudent Doctor認定証を発行する。
- 本来医行為を認められていない医学生に、実習の範囲内で医行為を行うことができる認証 (違法性の阻却事由) を与える。

※ 医道審議会医師分科会報告書. 令和2年5月, <https://www.mhlw.go.jp/content/10803000/000629953.pdf>

■ 参加型臨地実習の実現を目指して

- 共用試験実習前知識試験 (CBT) と客観的臨床能力試験 (OSCE) の実現

看護学生の参加型臨地実習を可能にする実習前知識試験（CBT）と客観的臨床能力試験（OSCE）

■ JANPU看護学教育質向上委員会

- 実習前CBT日本看護系大学協議会版運用システム試行ワーキング（JANPU-CBTワーキング）
- JANPU-CBT実証事業
 - 2022年度に3回実施

■ まずは、第一歩を踏み出しました。

ご清聴ありがとうございました。

